

ら、家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、教員等に支えられながら、幼児期なりの豊かさに出会う場であり、子供たちの社会になっています。また、幼稚園とは、3歳以上の幼児を対象として、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする学校であって、小学校以降の生活や学習の基盤を培う学校教育のはじまりとしての役割を担っています。幼稚園は文部科学省の管轄であり、厚生労働省の管轄である保育園と大きな違いがあります。それぞれに教育のベースがあり、幼稚園では、生涯にわたる人間形成の基礎を培う教育を行っています。

幼児教育は、目先の結果のみを期待しているのではなく、生涯にわたる学習の基礎をつくること「後伸びする力」を培うことを重視しています。そして、幼児教育は、知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などの「確かな学力」や「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康・体力」からなる、「生きる力」の基礎を育成する役割を担っています。小学校から中学校は、「生きる力」を身につける。とありますが、幼稚園は基礎を育成するとあります。それだけ、ベースとして重要なものとされています。

小学校に入学するための発達の過程と指導のポイントとして育みたい能力・資質の3本の柱とし、5領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という内容で指導しています。そして、「幼児期の終わりまでに育てたい10の項目」があります。これは、必ず身につけなければならないものではなく、ある意味努力目標のようなものであり、園だけでなく、家庭教育の中でも育てていきたい目安となるものです。

③ 令和4年度「学校評価」における「自己評価結果」及び「改善の方針」について発言

【幼稚園運営】

教育方針やそれに基づいた教育活動の在り方について、保護者の理解を得ることは、家庭と連携して教育を推進する上で極めて重要と捉えている。コロナ禍のため、公開の機会に配慮が必要だったが、目標をほぼ達成したと評価する。次年度は、通常通りの公開に戻して、さらに理解を高めたい。

保護者に子供の成長を実感できるようにすることを教育の目標の柱としている。次年度も、引き続き、一人一人のよさを認め、伸ばす教育を積極的に推進していきたい。

環境の整備については、高い評価を得ている。引き続き、環境を通じた教育の充実を図りたい。

相談体制については、高い評価を得ている。相談しやすい雰囲気づ

くりと迅速な対応、対応後の継続的な観察等に努め、一層の充実を図りたい。

【家庭生活への波及】

「喜んで元気に登園すること」については、昨年度に比べてポイントが向上し、改善が見られた。引き続き、子供たちが元気に登園できる環境・条件を整えていきたい。

「挨拶の習慣化」については、少しずつ改善が見られるが、マスクの常態的着用や大きな声を出さない習慣等の影響を受けていると捉えている。コロナ禍収束後に重点的に取り組むべき内容と位置付けたい。

「文字や数に対する興味・関心」については、「A・B」の割合が、年少児「82%」、年中児「91%」年長児「100%」と学年に即した高まりが見られる。引き続き、遊びの中に意図的に学習の要素を取り入れ、家庭と連携して向上を図りたい。

「園生活を話題とした会話」については、子供の自己肯定感を高めるために、家庭においても、幼稚園生活での努力や成果を認め、積極的に称賛できるように引き続き、働きかけていきたい。

令和4年度末 園運営に関する意見・要望等

1 保護者への教育活動の公開等について

【要 望】

- ・ 新型コロナ感染防止のため、活動を参観できる機会が減ったり、参観できる保護者の数が制限されたりすることは、仕方がないと思うが、残念である。感染の状況が改善された際には、少しずつ参観の機会や参観者を増やすことに取り組んでほしい。
- ・ 少なくとも保育参観と生活発表会については、一家庭二人で参観できるようにしてほしい。

2 教育全般について

【意 見】

- ・ 家庭で学ばせることのできないことも、しっかりとできるようになってきている。たくさんの愛情を注いだ指導に感謝する。
- ・ コロナ禍の中にあっても、できる限りの活動を積極的に行っていたに感謝している。
- ・ いつも、安心して子供を預けることができる。
- ・ これからも、子供たち一人一人の個性を大切にされた教育を進めてほしい。
- ・ 花崎北幼稚園で過ごせる残り3か月をよろしくお願ひしたい。
- ・ 一人一人の特性に合った指導をしていただいている。また、小学校への入学やその後の小学校生活のことを考えて指導していただい

いることにも感謝する。

- ・子供が、毎日楽しく幼稚園に行っていることに感謝している。
- ・一人一人を大切にされた温かい指導に感謝している。

【要 望】

・外国籍の保護者にもわかるような英語による説明や連絡にも取り組んでほしい。

3 その他

【意 見】

・アンケートの「家庭での生活について」の3「様々な人とかかわることを楽しみながら活動している」については、「楽しんで活動していない」のではなく、コロナ禍で人とかかわる機会がほぼないのが現状と捉えている。

昨年度の評価・意見・要望を参考にしながら、今年度の経営方針を作成しております。

- ④ 本年度の「経営方針」及び「重点とする取組」等について発言
令和5年度 経営の基本方針

【経営方針・3つの重点+α】

- 1 幼児の変容と成長を実感できる教育の推進
 - 2 個に応じた指導・援助と小学校への円滑な接続
 - 3 家庭・地域との協働による教育の強化
- α 幼稚園教育の重要性の保護者への周知

幼稚園における活動が、小学校以降の「学ぶ力」の基礎をつくる重要な学習であることを保護者に積極的に発信します。

そして、本年度の重点とする取組についてですが、経営方針を踏まえて、重点とする取組（令和5年度研修課題）は、以下の通りです。

○心豊かに育ちあう幼児の育成

～異年齢児（幼児・児童・生徒）との関わりを通して～

とし、日常の保育の中で、異年齢児や異校種（保・小・中）とのかかわりが深まるような活動を計画的に取り入れ、「人とかかわる力」や「自己をとりまく社会の感覚」を養い、生涯にわたる学習の基礎を培うための取組を推進しています。これをもとに、年間計画につなげていきます。

- (5) 1学期の保育活動について発言

令和5年度がスターとしました。昨年度よりも10名少ない人数となりましたが、子供たちはげんきにのびのびと毎日をお過ごししています。4月当初は緊張した様子や環境の変化に戸惑う姿が見られましたが、現在は、自ら遊びを見つけ、友達と関わり合っていて遊んでおります。

また、今年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の5類への移行

主任教諭

	<p>を受け、マスクの着用や行事への内容など制限をなくして活動することができるようになりました。</p> <p>4月11日にはじまりの式、入園式を行いました。5月になり、保育ボランティアの方の活動が始まりました。紙芝居の会、幼児体操、キラキラベリー（英語で遊ぼうの会）など、年中、年長対象の活動であり、子供たちの大好きな活動です。これらの活動を通して、人と関わることの楽しさを身に付けていきます。</p> <p>保護者に関わる行事等についてですが、これまでに、保育参観・PTA総会と、教育相談（6月19日～23日）を実施しました。PTA総会は、正副会長との話し合いの末、昨年度同様、書面での開催とし、5月12日から新体制でのPTA活動が始まりました。また、教育相談では、家庭での様子や園での様子をお話することで、園での教育活動に生かしているところです。</p> <p>6月20日には、プール開きを行いました。天気の良い日には、元気にプール活動を楽しむ様子が見られます。また、年中・年長児は、小学校のプール施設を使った活動や、高学年との交流を予定しています。今年度の研究テーマである「異年齢との関わり」において、計画的に行ない、子供たちにとって充実して活動となるよう努めてまいります。</p> <p>2学期以降は、運動会や遠足等の大きな行事も計画しています。運動会では、たくさんの方に御覧いただくことで、幼稚園教育を御理解いただけたらと考えております。</p> <p>6 保育視察</p> <p>7 協議【質疑・応答・意見交換】</p>
佐藤 評議員	<p>年少組の実態についての質問</p> <p>年少組2クラスは体型やクラスの雰囲気の違いがあるように見えたのですが、どのような状況ですか？</p>
主任教諭	<p>本日は、通常の保育のクラスと参観のクラスということで、活動の内容に違いがあります。また、体型や基本的な生活習慣の獲得、排泄の自立など、それぞれのクラスに特徴があり、それによってクラスの雰囲気にも個性が出てきております。</p>
佐藤 評議員	<p>年中クラスに比べ、年少クラスの方が父親の参加人数が多いように感じたが、関心が薄れてくるものなののでしょうか。</p>
主任教諭	<p>本日の参観は、人数の制限等はしていませんが、親子で制作をするにあたり1名で対応してくださる保護者の方が多い印象は受けました。ですが、普段は、年少クラスに限らず、年中・年長クラスの保護者の方も父親が送迎をしたり、保育参加に積極的に参加していただいたりしております。</p>

伏見 評議員	<p>プール活動についての質問</p> <p>排泄の自立が済んでいないお子さんは、小さなプールを用意してそれぞれ入っているということでしたが、現在の排泄の自立についてはどのような状況ですか？</p>
主任教諭	<p>入園当初はおむつを利用しているお子さんがいましたが、現在は家庭と連携して、おむつを外して登園してくるようお願いし、トイレトレーニングを行っているお子さんが数名おります。</p>
伏見 評議員 園長	<p>幼稚園でも促してもらえるのは、とてもありがたいことですよね。</p> <p>家庭のしつけについても、園や学校が担っているところが多くなっていますね。両親ともに外で働いている家庭が増えているので、子供と関わる時間が少なくなっている現状があります。</p>
伏見 評議員	<p>昔と比べて働きやすくなってきていますね。</p> <p>育児休暇も取りやすくなりましたが、男性の育児休暇についてはどうですか？</p>
園長	<p>現在は職員の感覚も変わってきているので、取得する方も増えていますが、代員が確保できないという現状があり職員の人数不足が課題ですね。</p>
松井 評議員	<p>幼小の連携についての発言</p> <p>再編計画もありますが、幼稚園と小学校の教員の交流や研修を充実させることで、公立幼稚園のよさがさらに強まり、就園率にもつながるのではないのでしょうか。</p>
園長	<p>現状としては、職員間の交流は十分ではありませんが、今後、幼小それぞれの教員がお互いを理解しようとするための交流や研修の時間を確保することに努め、意識を高めて参りたいと思います。</p>
主任教諭	<p>交流については、これまでも実施してきましたが、小学校や園の実態に合わせて単発的な交流だけでなく、継続した活動が実現できるよう取り組んでいきたいと思います。</p> <p>8 閉会の言葉</p> <p>多くのご意見をいただきありがとうございました。以上をもちまして、令和5年度第1回幼稚園評議員会を閉会いたします。</p>
<p>会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。</p> <p>令和5年7月4日</p> <p style="text-align: right;">署名 <u> 園長 佐藤 元治 </u></p>	